

1. Course Description

1・2年次に学修した解剖学を総復習し、国家試験に対応できる能力を身につけることを目標とします。

解剖学特別講義は解剖学を不得意とする学生のための授業です。

授業は、演習問題と解説講義にておこないます。

国家試験は1・2年次に使用した解剖学の教科書を中心に出题されます。国家試験過去問題など演習問題に取り組み、国家試験出題傾向を修得すると共に弱点を洗いだし学びます。教科書の内容を総復習し、確実に理解します。国家試験出題率の高い部分や弱点については、その場で学ぶなど、国家試験に向けできる限り漏れのない解剖学の総括を行います。また、授業時の質問に対してグループディスカッションを行い答えてもらいます。

この授業ではDPIに関する知識を修得します。

2. Course Objectives

- ① 運動器の基本問題を解決することができる。
- ② 循環器の基本問題を解決することができる。
- ③ 内臓の基本問題を解決することができる。
- ④ 内分泌器の基本問題を解決することができる。
- ⑤ 神経系の基本問題を解決することができる。
- ⑥ 感覚器の基本問題を解決することができる。

3. Grading Policy

定期試験(50%)と演習問題の結果(50%)で最終成績とします。

試験の解答および解説をLMSにアップします。

4. Textbook and Reference

Textbook

岸清、石塚寛編 全国柔道整復学校協会監修教科書『解剖学』 2版 医歯薬出版株式会社

5. Requirements(Assignments)

予備学習として該当項目の教科書の復習を行ない、特に理解度の低い項目をチェックしておくようにして下さい。LMSに掲載される練習問題を解いておいてください。授業中に解説します。

復習としてLMSに掲載される課題項目についてまとめ、理解を深め疑問を洗い出すように努めてください。

およそ予習に1.5時間、課題と問題解答の復習に1.5時間を見込んでいます。

6. Note

特になし

7. Schedule

- [1] 脊 柱
準備学修:教科書(p28～33)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [2] 胸 郭
準備学修:教科書(p33～36)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [3] 上肢骨と関節
準備学修:教科書(p36～46)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [4] 下肢骨と関節
準備学修:教科書(p46～59)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [5] 頭 蓋
準備学修:教科書(p59～70)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [6] 頭部の筋
準備学修:教科書(p76～78)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [7] 胸部の筋
準備学修:教科書(p81～84)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [8] 頸部の筋
準備学修:教科書(p78～81)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [9] 腹部の筋
準備学修:教科書(p85～88, 201)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [10] 背部の筋
準備学修:教科書(p88～92)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [11] 上肢の筋 1:上肢帯の筋、上腕の筋
準備学修:教科書(p92～97)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [12] 上肢の筋 2:前腕の筋、手の筋
準備学修:教科書(p97～107)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [13] 下肢の筋 1:下肢帯の筋、大腿の筋
準備学修:教科書(p107～114)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [14] 下肢の筋 2:下腿の筋、足の筋
準備学修:教科書(p114～122)。詳細は「準備学修」の項目を参照してください。
- [15] テスト、まとめ
準備学修:全項目のまとめを行い、疑問点を解決するように取り組んでください。